

上市町埋蔵文化財分布調査報告 V

1992年度

上市町教育委員会

1993年3月

序

靈峰駿の麓にひろがる上市町は、古くから人々の生活の場として、数多くの文化遺産を育んできた所です。今から約1万8千年前の眼目新丸山遺跡、縄文時代の極楽寺遺跡などがその歴史を如実に物語っています。祖先が苦難に耐えて、人生を開拓し、懸命に生きてきた中に激変する今日にも通用し、来るべき21世紀にも価値をもつに違いない業績と生きかたを学ぶことができるのです。

ところが、近年、押し寄せる開発の波の中で、これらの貴重な文化遺産が失われようとしています。

町ではこの事態を重視し、次代を担う人々にもこのすばらしい恩恵が受けられるよう文化遺産を継承することが、今に生きる者の責務であるとの考え方から、そのための基礎資料を充実することにいたし、本年度その事業を完結致しました。

これまでの調査結果が文化財保護行政の進展の一助として活用されることを願ってやみません。

最後に、本調査の実施、報告書の作成にあたり5ヶ年間、数々のご助力をいただいた富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター、富山大学人文学部考古学研究室をはじめとする関係諸機関の方々に厚く御礼申し上げます。

上市町教育委員会

例　　言

1. 本書は、上市町教育委員会が国庫補助事業として実施した遺跡詳細分布調査の5年次目（1992年度）の報告書である。
2. 調査は、富山県埋蔵文化財センター、富山大学考古学研究室の指導と協力を得て上市町教育委員会が実施した。
3. 調査事務・現地調査は、生涯学習課主任高慶孝が担当し生涯学習課長神谷育雄が総括した。
4. 遺物の整理、本書の編集・執筆は、調査担当者がおこなった。
5. 調査参加者は次のとおり。（現地調査補助員）亀井聰・高橋浩二・野村祐一・鈴木和子・角田隆志・大知正枝・大野淳也・小野木学・海道順子・柳原滋高・島崎久恵・中村大介・長谷川幸志・松田留美・松山温代・宮田明・大泰司統・大平愛子・小野寺克実・河合忍・佐藤聖子・武田昌明・鶴松吾・中田書矢・野中由希子・福海貴子・松原一也（遺物整理）三輪スミ・山崎美里
6. 本書の作成にあたっては、富山県埋蔵文化財センターをはじめ、富山大学人文学部助教授宇野隆夫・同助教授前川要の両氏、立山町教育委員会社会教育課主事森秀典・同文化財係瀬戸智子をはじめとする方々から多大の御協力と貴重な御教示を受けた。深く感謝して御礼申し上げる次第である。

目 次

第1章 はじめに

1 調査の目的	1
2 調査の経過	1
3 上市町の他勢と自然	2

第2章 分布調査の成果

1 遺跡と採集遺物	3
(1) 正印新遺跡	3
(2) 下経田遺跡	3
(3) 中小泉遺跡	3
(4) 飯坂遺跡	3
(5) 江上A遺跡	3
(6) 江上B遺跡	4
(7) 東江上遺跡	4
(8) 中小泉東遺跡	4
(9) 若杉神田遺跡	4
(10) 若杉堺田遺跡	5
(11) 大永田西遺跡	5
(12) 石仏南遺跡	5
(13) 石仏遺跡	5
(14) 石仏鳴町遺跡	5
(15) 下青出遺跡	6
(16) 中青出遺跡	6
(17) 中青出南遺跡	6
(18) 中開発北遺跡	6
(19) 飯坂北遺跡	6
(20) 中開発遺跡	7
(21) 放土ヶ瀬北遺跡	7
(22) 放士ヶ瀬南遺跡	7
(23) 放士ヶ瀬西遺跡	7
(24) 放土ヶ瀬新遺跡	7
(25) 下荒又遺跡	7
(26) 相ノ木北遺跡	8
(27) その他	8
参考文献	8
挿 図 第1図 地域区分図	2

目 次

第1章 はじめに

1 調査の目的.....	1
2 調査の経過.....	1
3 上市町の他勢と自然.....	2

第2章 分布調査の成果..... 3

1 遺跡と採集遺物	3
(1) 正印新遺跡..... 3	(16) 中背出遺跡..... 6
(2) 下経田遺跡..... 3	(17) 中背出南遺跡..... 6
(3) 中小泉遺跡..... 3	(18) 中開発北遺跡..... 6
(4) 飯坂遺跡..... 3	(19) 飯坂北遺跡..... 6
(5) 江上A遺跡..... 3	(20) 中開発遺跡..... 7
(6) 江上B遺跡..... 4	(21) 放土ヶ瀬北遺跡..... 7
(7) 東江上遺跡..... 4	(22) 放土ヶ瀬南遺跡..... 7
(8) 中小泉東遺跡..... 4	(23) 放上ヶ瀬西遺跡..... 7
(9) 若杉神田遺跡..... 4	(24) 放土ヶ瀬新遺跡..... 7
(10) 若杉界出遺跡..... 5	(25) 下荒又遺跡..... 7
(11) 大永田西遺跡..... 5	(26) 相ノ木北遺跡..... 8
(12) 石仏南遺跡..... 5	(27) その他..... 8
(13) 石仏遺跡..... 5	
(14) 石仏鳴町遺跡..... 5	
(15) 下背出遺跡..... 6	

参考文献.....	8
-----------	---

挿 図 第1図 地域区分図	2
---------------------	---

図版目次

- 図版1 調査地区現況写真 (1)
- 図版2 遺物実測図 (1) 繩文土器、弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器
- 図版3 " (2) 須恵器、土師器、珠洲、陶磁器
- 図版4 " (3) 弥生土器、須恵器、陶磁器
- 図版5 " (4) 弥生土器、須恵器、土師器、陶器
- 図版6 " (5) 須恵器、土師器、珠洲、陶磁器
- 図版7 " (6) 須恵器、土師器、珠洲、陶磁器
- 図版8 " (7) 弥生土器、須恵器、土師器、珠洲、陶磁器
- 図版9 " (8) 須恵器、珠洲、陶磁器
- 図版10 " (9) 弥生土器、須恵器、土師器
- 図版11 " (10) 繩文石器、弥生土器、須恵器、珠洲、陶器
- 図版12 遺物写真 繩文土器、弥生土器、須恵器、珠洲、土師器、陶磁器
- 図版13 " 弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器
- 図版14 " 須恵器、土師器、珠洲、陶磁器
- 図版15 " 弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器
- 図版16 " 須恵器、陶磁器
- 図版17 " 繩文石器、弥生土器、須恵器、珠洲、陶磁器
- 図版18 遺跡分布図

第1章 はじめに

1 調査の目的

上市町に人々の営みが確認できる最も古い時期は、今から約1万8千年前であり、それは上市川左岸の河岸段丘、^{眼目新丸山}遺跡においてである。以後、旧石器(先土器)・縄文時代は、この上市川左右両岸の段丘上、弥生時代は、上市川、白岩川をはじめとする河川により形成された扇状地、古墳時代以降は町の平野部全域というように、時代により生活の場の中心は変化する。しかしながら、現在にいたるまで連続として人々の営みが続いている。

したがって遺跡の数も多く、1972年(昭和47年)の『富山県遺跡地図』においては41箇所の遺跡が登録されている。そして、弥生時代の江上遺跡に代表されるように、その後、新たに発見された遺跡も多く、未発見、未登録の遺跡も少なからず存在するものと考えられる。

ところが、近年の開発行為の増加に伴い、遺跡の保護と開発との調整が社会問題化してきており、こうした中で、人知れぬうちに消滅した遺跡もあった可能性がある。

上市町教育委員会では、郷土の歴史と文化を守り育てるため、また保護と開発との調整のための基礎資料として、遺跡台帳、遺跡地図の整備充実が急務であると考えたのである。

2 調査の経過

以上から、上市町教育委員会では、国庫補助金、並びに県費補助金を得て遺跡詳細分布調査を行うこととした。今回の調査はその5年次目、最終年度にあたる。

調査対象は、山岳地帯と一部山地を除く全町域をI～V地区に区分し、5ヶ年を目途に遺跡の所在確認及び遺物の採集を行うこととした。

今回の調査地区は、主要地方道富山上市線以北と上市川左岸の町域に広がる平野部一帯である。(第1図V)。これらの地区は、道路建設、住宅建設、工場用地の造成などが近年とくにめざましい地区であり、遺跡の保護上、早急に遺跡の有無、規模、性格を把握する必要性があった。調査の実施にあたっては、便宜上、北陸自動車道の北部と南部の2地区に区分し、さらに南部を富山地方鉄道本線で東西2地区に、北部を一般地方道上市・水橋線、町道若杉・飯坂新線で3地区に区分して、対象地域の目安とした。ただし、河川や村落の聚住地点は調査が困難であったため、一部調査は、将来に委ねた。調査地区的面積は約400haである。

調査に持参する地図は5千分の1の国土基本図とし、遺物密度の高い場所以外では、原則として1点ごとに地点を記入した。

調査機関は、1992年11月7日から同年11月15日の計6日間、延べ94人の参加を得て実施した。遺物の整理、実測、写真撮影、報告書の作成は、1992年1月から3月にかけておこなった。

調査にあたっては、富山大学考古学研究室の協力を得、現地調査の補助員として多くの方々に

参加いただいた。記して謝意としたい。

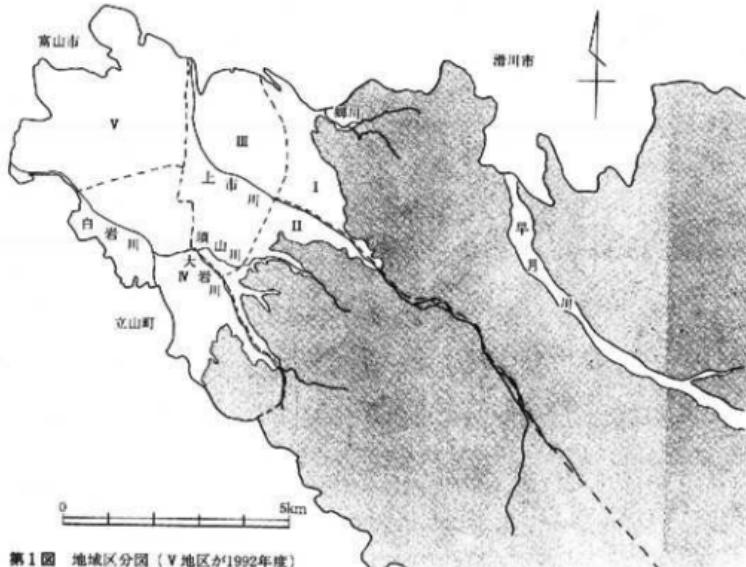
3 上市町の地勢と自然

上市町は、富山県の東南部に位置し、立山連峰に源を発する早月川、上市川、白岩川にそって東南から北西に細長く延びる町である。西は県の中心である富山市に、東は標高2998mの剣岳をはじめとする北アルプスの山々が連なる。町域は東西約26km、南北約16kmで、面積は約237km²を測る。

地形は実に変化に富んでいる。東部は山岳地帯で、そこをぬうように早月川が流れおり、流域に独特の自然景観をあたえている。西部は、上市川、白岩川によって形成された扇状地が広がり、緑の田園地帯を形づくっている。富山湾岸までの距離は約10kmである。扇状地の扇側部付近は、隆起によってできた河岸段丘が、東西に延びており、山地との境にまで続く。こうした地形の背後に丘陵があり、剣岳をはじめとする山岳地帯へと続く。これが北アルプス立山連峰で、氷河地形の圓谷（カール）や、火山地形が隨所に見られる。町の最高地点、剣岳と、最低位の上市川の扇端部までは約26kmで、比高差は約2950mである。

このように、上市町は、東西の比高差が非常に大きいため、照葉樹林、落葉樹林、針葉樹林、低木林というように、多様な植物分布を示し、それに伴う複雑な動物相も存在している。

今回の調査は、上市川、白岩川の扇端部分に広がる沖積平野が対象である。これらの地域ではこれまで江上A遺跡・正印新遺跡・飯坂遺跡などをはじめとする弥生時代から中世にかけての遺跡が知られているが、地域全体の実体が明確でない地域である。



第1図 地域区分図（V地区が1992年度）

第2章 分布調査の成果

1992年度調査によって整理箱5箱分の資料を採集した。遺物総数は、1,023片で、約80個体余りの土器等を採集した。以下遺跡ごとに説明を行う。

1 遺跡と採集遺物 (図版1~18)

(1) 正印新遺跡 (図版18の1) 上市町下経田

遺跡は、白岩川の右岸、標高約15mの地域で富山地方鉄道相ノ木駅の北約300mに所在する。平坦地でやや微高地に専ら地する。付近一帯は宅地と水田で現在はは場整備が終了しているが、遺跡そのものは、残存しているものと考えられる。本遺跡は、昭和55年に北陸自動車道建設に伴う発掘調査が行われており、弥生時代後期と、中世の遺構・遺物が発見されている。

採集遺物は、弥生上器、陶磁器を採集したが、いずれも細片で摩滅もはげしい。今回は陶器片1片を図示した(図版2の1)。1は内外面に鉄釉を施した越前の壺の口縁部である。

(2) 下経田遺跡 (図版18の2) 上市町下経田・中小泉

遺跡は、正印新遺跡の北約100mの標高15mの微高地に所在する。北陸自動車道沿線に所在し、前記の正印新遺跡同様、昭和55年に発掘調査がおこなわれている。この時の出土遺物は、縄文土器・古式土師器・土師質土器・珠洲等であったが明確な遺構は、発見されていない。今回の調査でも遺物は、採集されなかったが主要な時期は中世と考えられる。

(3) 中小泉遺跡 (図版18の3) 上市町中小泉

遺跡は、下経田遺跡の北に隣接して所在する。標高は、前記2遺跡とはほぼ同様で約15mである。昭和55年の発掘調査では、弥生時代の溝、それに伴うシガラミ、中世の溝・井戸等の遺構がそれぞれ検出されている。遺物は、弥生時代後期の土器・石器、小型彷製鏡、弓、又歎、等の多数の遺物が出土し、また、中世の土師器、珠洲、青・白磁、下駄、箸なども多数発見されている。

今回の調査では、陶器片2片を採集したにとどまった。

(4) 飯坂遺跡 (図版18の4) 上市町飯坂

遺跡は、中小泉遺跡の北東約200m、飯坂集落の南東200mの北陸自動車道沿線に所在する。標高は、約20mで付近は、水田である。この遺跡も昭和55年に発掘調査されており、弥生時代の方形周溝墓9基と溝、中世の溝等が検出された。遺物は、縄文土器、弥生土器、須恵器等が出土している。今回の調査では、土師器、陶磁器等を出土したが、土師器はいずれも細片で、陶磁器片3片を図示した(図版2の2~4)。2は、越中瀬戸の皿で内外面に乳白色の釉が施されている。3・4は、いずれも越中瀬戸の檻鉢で、内外面に鉄釉が施されている。

(5) 江上A遺跡 (図版18の5) 上市町江上

遺跡は、飯坂遺跡の北東約400m、中青出集落の北西に隣接して立地する。この遺跡も昭和55年の発掘調査で、弥生時代の建物跡・棚・環状の溝・橋・井戸等の遺構、農耕具・建物の部材・紡

鍾車・斧の柄・籠など約10,600点にも及ぶ多数の木製品、ヒスイ・勾玉などの石器、復元できるものだけで200点以上にものぼる土器など非常に多数の遺物を出土しており、北陸に於ける最大級の弥生時代遺跡として知られている。今回の調査では、縄文土器、弥生土器、須恵器、土師質土器、陶磁器等20点を採集した(図版2の5~13)。5~8は、越中瀬戸である。5・7は、鉄軸の碗、8は、鉄軸の蓋である。9・10は、土師質の皿で、9は、スヌが付着しており、灯明皿である。27は、須恵器の碗である。口縁から9世紀末のものと考える。11・12は、弥生土器で、それぞれ器台の頭部と底部である。13は、縄文土器である。口唇部が肥厚し、縄文が施されている。後期の土器と考える。

(6) 江上B遺跡(図版18の6) 上市町江上

遺跡は、江上A遺跡の北東に隣接して立地する。標高は、約16mである。昭和55年の発掘調査では、弥生時代の建物跡・溝・穴・中世の建物跡・溝・柱穴等が検出された。遺物は、弥生土器・古式土器・珠洲・中国製磁器・陶磁器・石斧・折敷・箸など多数の遺物が出土した。今回の調査では、遺物は、採集されなかった。

(7) 東江上遺跡(図版18の7) 上市町東江上

遺跡は、江上B遺跡の北東約600mで東江上集落の東に隣接して所在する。昭和55年の発掘調査では、7世紀末の掘立柱建物・溝・土壙・井戸など多数の遺構、須恵器・珠洲・越中瀬戸などの遺物を出土した。今回の調査では、須恵器・土師器・陶磁器等16片を採集した(図版2の14~26・28~33)。14~22は、陶磁器である。このうち14~19・20は、越中瀬戸である。このうち14・15は皿、17~19・22は碗で、いずれも鉄軸が施されている。20・21は、磁器でそれぞれ碗と紅皿である。23~25は、土師質の皿である。15世紀ごろの物と考える。28は、土師質の土馬である。26・27・29~33は、須恵器でこのうち26は、杯蓋で口縁端部に受部がある。31・32は内面に同心円状のあて具痕が、29・31には外面タタキのあと、はけ目が施されている。

(8) 中小泉東遺跡(図版18の8) 上市町中小泉

遺跡は、中小泉集落の南側に隣接して立地する。標高は、約17mで、付近一帯は水田・畑である。この遺跡は、今回の調査ではじめて確認された遺跡である。採集遺物は、土師器・須恵器・珠洲・陶磁器等25点であった(図版2の34~44)。34は、伊万里の碗で内面に葉の模様がみられる。27・28は、越中瀬戸の皿で灰釉が施されている。35・36は、珠洲の擂鉢で内面に擂り目が見られる。39~42は、外面にタタキ目がある須恵器の蓋である。43・44は土師器でそれぞれ蓋の口縁部と底部である。出土遺物から概ね8世紀から中世にかけての遺跡であると考える。

(9) 若杉神田遺跡(図版18の9) 上市町若杉

遺跡は、中小泉東遺跡の東約600mに位置し、富山地方鉄道沿線に広がる。標高は、約26mで付近一帯は水田と宅地である。遺跡は、今回の調査で確認されたものである。採集遺物は、須恵器・珠洲・陶磁器で34点である(図版2の45~49・図版3の1~7)。図版2の45~49は、陶磁器である。このうち46~49は、越中瀬戸である。図版3の1・2、4~7は、須恵器である。1は、环身である。2は、杯蓋のツマミ部分である。4~7は、内外面にそれぞれタタキ・あて具痕が

見られる。出土遺物から遺跡は10世紀以降と考えられる。

(10) 箕杉^{みの}神田遺跡(図版18の10) 上市町箕杉

遺跡は、若杉神田遺跡の東に隣接し、主要地方道上市・北馬場線に面して位置する。この遺跡も今回の調査で確認されたものである。採集遺物は、須恵器、土師器、陶磁器などで、21点を数える(図版3の8~13)。8は、青磁の皿で口唇部が波状の物である。9~13は、須恵器である。9・10は、内外面にタタキと同心円状のアテ具痕が見られる。11・12は、坏蓋で玉縁状の端部をもつ。13は、坏身である。出土遺物から9世紀代の遺跡と考える。

(11) 大永田西遺跡(図版18の11) 上市町大永田

遺跡は、東江上遺跡の北約400mに位置し、富山地方鉄道本線の西に面して専地する。今回はじめて確認された遺跡である。出土遺物は、弥生土器、須恵器、土師器、珠洲など46点を数える(図版3の14~33)。14~19は、土師質の皿である。このうち17は底部が段状にくびれるものである。20~23・25は、弥生土器である。20~22は、甕の口縁部である。23は、高杯の器部で口縁部との接合痕がみられる。24・26~33は、須恵器である。24は、坏蓋で頂部が平になるものである。31は、外面がタタキと搔目により調整されており、内面に同心円状のアテ具痕が見られる。これらの遺物から弥生時代後期・10世紀代の遺跡と考えられる。

(12) 石仏南遺跡(図版18の12) 上市町石仏

遺跡は、大永田西遺跡の北西に位置し、下条用水の南に広がっている。今回の調査で確認された遺跡である。出土遺物は、弥生土器、須恵器、土師質土器、陶磁器で20点採集した(図版3の34~43)。34は、越中瀬戸の皿で、内面底部に菊の文様がほどこされている。35は、伊万里の碗である。36~40は、須恵器である。36は、坏蓋である。頂部が丸いものと考える。37・38は、碗で38は、やや高めの高台が付いている。39は、甕の口縁部である。40は、甕の口縁部で口唇部が粘土帶を貼付してかたちづくられる。41・42は、珠洲である。41は擂鉢、42は甕の口縁部である。43は、底部外側がやや内湾する弥生土器である。以上の遺物から遺跡は、中世のかなり長い期間営まれたものと考える。

(13) 石仏遺跡(図版18の13) 上市町石仏

遺跡は、石仏南遺跡の北約100mに東西約200mの幅で広がっている。標高は、約20mであるが、周辺と比較するとやや高い。この遺跡も今回の調査で確認されたものである。遺物は、須恵器、土師質の皿、陶磁器などで、23点を採集した(図版11の3~11)。3~5は、土師質の皿である。このうち5は灯明皿と考える。6~9は、須恵器でいずれもタタキが外面に施される。10・11は越中瀬戸の皿と甕である。以上の遺物から本遺跡は、10世紀以降営まれたものと考える。

(14) 石仏^{いのわ}鳴町遺跡(図版18の14) 上市町石仏

遺跡は、石仏遺跡の東約200mに位置し、鳴町神社横の畠に専地する。標高は、10mで小高い丘状の地形である。今回の調査で確認された遺跡である。遺物は、48点を数えその殆どが土師質のものであるが、細片で図示できなかった。ここでは、底部に糸切り痕を残す越中瀬戸の碗を掲載するのみである(図版4の1)。

(15) 下青出遺跡（図版18の15）上市町下青出・上条沖

遺跡は、下青出集落と上条沖集落の間に広がる水田一帯に位置する。標高は、約8mである。今回の調査で確認されたものである。遺物は、弥生土器、須恵器、土師質土器、珠洲、陶器等15点を採集した（図版4の2～8・26）。2・3は、越中瀬戸の皿である。4は、弥生土器の器台である。5・7・8は、須恵器で、このうち8は碗である。6・26は、珠洲でそれぞれ擂鉢と甕である。

(16) 中青出遺跡（図版18の16）上市町中青出

遺跡は、下青出遺跡の南約100m、中青出集落とその北西部一帯の水田に位置する。標高は、約12mである。遺物は、弥生土器、須恵器、土師質土器、珠洲、陶磁器等27点を採集した（図版4の9～25）。9・10は、伊万里の皿と碗である。11～20は、越中瀬戸で11・15・16は黒色釉の碗、13・14は皿、16・17は甕・鉢、12・18・19は擂鉢である。21・22は、須恵器で22は外面にタタキと搔き目調整が行われている。23～25は、弥生土器でこの内24は、壺の底部で内面にハケナデ調整が行われている。

(17) 中青出兩遺跡（図版18の17）上市町中青出

遺跡は、中青出集落の南、標高約13mの水田に位置する。採集遺物は、弥生土器、須恵器、珠洲、陶磁器等25点で、このうちの17点を図示した（図版4の27～43）。27～29・31は越中瀬戸で27・28・31は皿、29は碗である。30は、緑色釉が施された陶器で外面にアヤスキ状の文様みられる。32は伊万里の皿である。33～42は、須恵器である。このうち38・39は坏蓋で偽宝珠のつまみを持つ。40～42は、碗・坏身類で口縁がやや外反する。43は、弥生土器で朱が塗られた器台である。後期のものと考える。以上から本遺跡は、弥生時代後期及び8世紀に主体があるものと思われる。

(18) 中開発北遺跡（図版18の18）上市町中開発

遺跡は、中青出集落の南西約200m、飯坂集落の西約150mの水田に位置する。標高は、約13mを測る。採集遺物は、弥生土器、須恵器、土師質土器、陶磁器などで、58点を数える（図版5の1～33）。1～3は、越中瀬戸の皿である。4～16は、土師質の皿である。このうち4～6・9・12・15は口縁がやや外反し、8・13・14は口縁端部が端反するもので、前者が15世紀、後者が16世紀に位置づけられる。17～30は、弥生土器である。17～19・26・27は、甕の口縁部で、17が外反する端部を持つ。26・27は、口唇部に刺突による文様が見られる。この内27は口縁が内湾する。21～25・28は、甕の胴部もしくは頸部で外面にハケナで調整がおこなわれている。このうち24はへら状工具による刺突文が施されている。また28は内外面に朱が塗られている。29は、器台の頸部、30は、高坏の頸部である。31～33は、須恵器である。31は鉢、32・33は坏蓋で、32は端部が内湾し、33は頂部が平面でへら削り調整が行われている。

(19) 飯坂北遺跡（図版18の19）上市町飯坂

遺跡は、飯坂集落の北側で弘誓寺の南西に隣接する畑に位置する。標高は、約14mである。採集遺物は、弥生土器23点で、後期のものと考える（図版5の34～36・44～48）。34は壺の口縁部で端部が細く立ち上がる。35は複合口縁の甕である。36は小型の甕である。44～48は、甕もしくは壺

の胸部で内面にハケナデ調整が施されている。

(20) 中開発遺跡（図版18の20）上市町中開発

遺跡は、飯坂北遺跡の南約200m、中開発集落の北に広がる水田に位置する。標高は、約13mである。遺物は、珠洲、陶磁器で10点を採集した（図版11の12～18）。12は伊万里の碗で外面に草花のも模が見られる。13～15は越中瀬戸で、13は鉄種の碗、14は甕、15は灰釉の皿である。16～18は珠洲で、17・18が13世紀代の擂鉢と考える。以上から13世紀代の遺跡と考えた。

(21) 放士ヶ瀬北遺跡（図版18の21）上市町放士ヶ瀬

遺跡は、放士ヶ瀬集落の北側に広がる水田、標高約10mの地域に所在する。採集遺物は、須恵器、土師質土器、陶磁器などで、17点であった（図版11の19～22）。19・20は越中瀬戸の碗で、鉄種が施されている。21・22は須恵器である。21は甕の底部で高台を意識したくびれが見られる。22は碗で外反する高台を有する。

(22) 放士ヶ瀬南遺跡（図版18の22）上市町放士ヶ瀬

遺跡は、放士ヶ瀬集落の南の東訪神社周辺、標高約10mの水田に所在する。採集遺物は、弥生土器、須恵器、土師質土器、陶器など33点であった（図版5の37～43・49～52、図版6の1～3・12）。5の37～40、6の12は弥生土器である。5の37は壺で口縁が外反する。5の38、6の12は甕の口縁部で、38は外反する複合口縁を持つ。39は甕の底部で外面がやや窪む。40は器台の脚部で頭部との接合痕が見られる。5の41・42、6の1・2は、越中瀬戸で、41は碗、42・1・2は皿である。43・51は、土師質土器で43は甕、51は皿である。5の49・50・52、6の3は須恵器である。49・50は内外面がタタキと同心円状のあて具で調整されている。52は短頸壺である。

(23) 放士ヶ瀬西遺跡（図版18の23）上市町放士ヶ瀬

遺跡は、放士ヶ瀬集落の南西の水田で、放士ヶ瀬南遺跡の東約100mに位置する。遺物は、須恵器、珠洲、土師質土器、陶磁器など20点を採集した（図版6の4～11）。4・9は珠洲でそれぞれ大甕の底部、碗である。5・8は越中瀬戸である。5は灰釉の皿、8は碗である。6・7は陶磁器で、このうち6は伊万里の碗である。11は土師質の甕、10は須恵器で、有台の坏身である。

(24) 放士ヶ瀬新遺跡（図版18の24）上市町放士ヶ瀬新

遺跡は、放士ヶ瀬西遺跡の北東約250mで、放士ヶ瀬新集落に隣接して所在する。出土遺物は、須恵器、土師質土器、陶器など10点を採集した（図版6の13～16）。13・14は、灰釉の皿である。15・16は、須恵器である。このうち16は壺の口縁でやや内湾する端部を有する。

(25) 下荒又遺跡（図版18の25）上市町荒又

遺跡は、放士ヶ瀬西遺跡の東約200m、下荒又集落の西に隣接して所在する。遺物は、須恵器、土師質土器、陶磁器など31点を採集した（図版6の17～32）。17～24・32は須恵器である。17・18は坏蓋である。17はつまみで偽宝珠を呈する。18は口縁端部が直立する。20～22は、外面にタタキ調整が施されている。23は甕の頭部でハケナデ調整が行われている。24は外面にタタキ目が、内面には同心円状のあて具痕がみられる。32は坏身で底部がヘラ削り調整されている。25～27は越中瀬戸である。25は擂鉢、26・27は皿である。28は瀬戸・美濃系の陶器の鉢、29は伊万里の皿

である。30は土師質の甕、31は灯明皿である。

(26) 相ノ木北遺跡 (図版18の26) 上市町放士ヶ瀬新

遺跡は、中開発遺跡の西約100m畠地で、相ノ木小学校の北約100mに所在する。付近は、水田で遺跡のある一画がやや小高い。遺物は、弥生土器、須恵器など7点を採集した (図版11の23~25)。23は須恵器の鉄鉢である。24・25は弥生土器である。この内24は甕の底部でヘラ状工具で調整されている。弥生時代後期と考える。

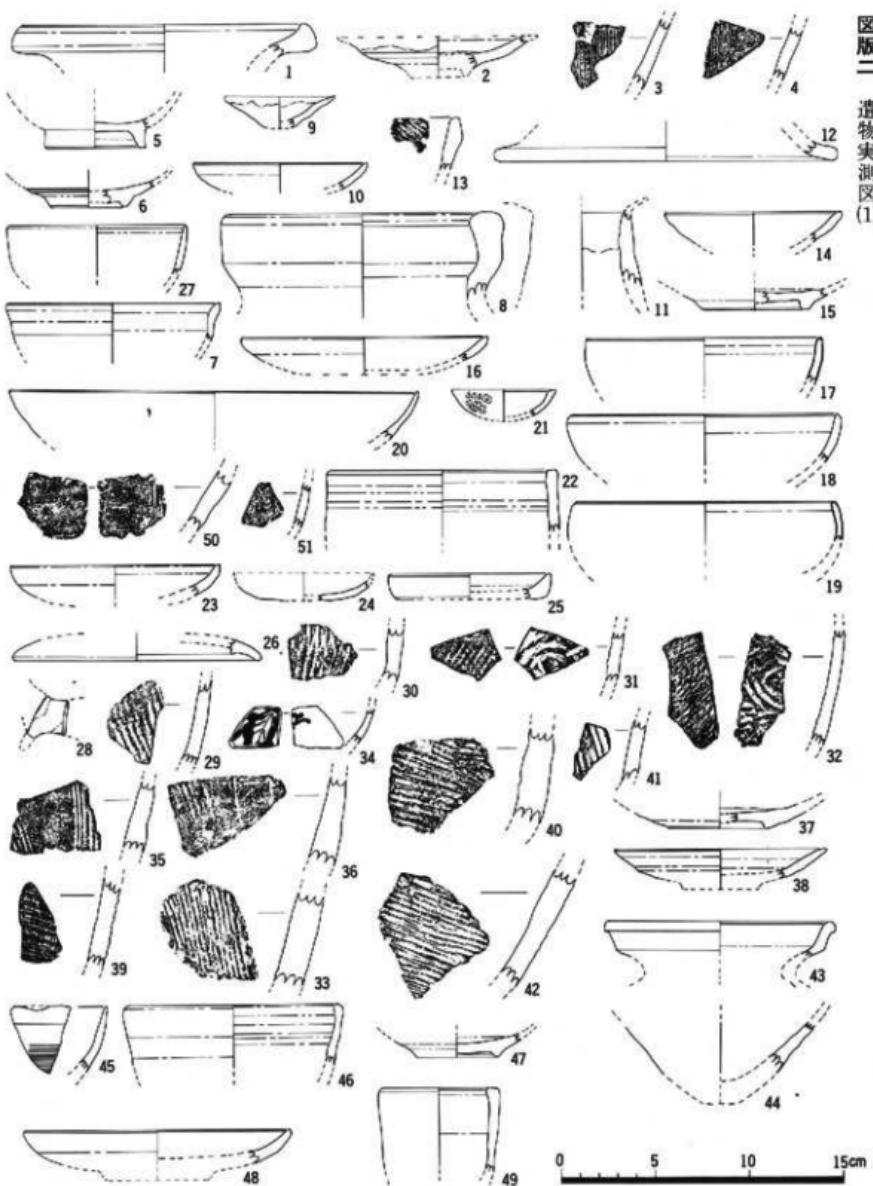
(27) その他 今回の調査で、遺跡として設定した地区以外でも多くの遺物を採集した (図版6の33~53・7・8・9・10・11の1・2)。これらの遺物は、北陸自動車道以南 (図版18、ア-1・2) と以北 (図版18、ア-3・4・5) で様相を異にする。前者は中世から近世にかけての遺物が多く、後者は弥生時代、奈良・平安時代の遺物が多いのである。これは、ア-1・2地区が中世に成立した上市に近く、中世以後、周辺の集落が成立したことによるものと考えられる。ア-3・4・5地区は、昭和初期まで条里制の痕跡が残っていた地域で、それに関連した古代遺跡があるものと考える。また、弥生時代の遺物は、上市川と白岩川に挟まれた平野部のやや小高い地域に多く見られ、遺跡も小規模で分散的に発見された。遺物は、ア-3・4・5地区ではほぼまんべんなく採集できるが、昭和60から70年代にかけて行われた、は場整備による影響と考えられ、集中する地点は限られた小地域であった。

参考文献

- 1 上市町『上市町誌』1970年。
- 2 上市町教育委員会『弓庄城跡第4次緊急発掘調査概要』1984年。
- 3 上市町教育委員会『弓庄城跡第5次緊急発掘調査概要』1985年。
- 4 上市町教育委員会『北陸自動車道遺跡調査報告—上市町遺構編』1981年。
- 5 上市町教育委員会『上市町埋蔵文化財分布調査報告I』1990年。
- 6 上市町教育委員会『上市町埋蔵文化財分布調査報告II』1991年。
- 7 上市町教育委員会『上市町埋蔵文化財分布調査報告III』1992年。
- 8 上市町教育委員会『上市町埋蔵文化財分布調査報告IV』1993年。
- 9 立山町教育委員会『立山町史』1977年。
- 10 上市町教育委員会『立山町埋蔵文化財分布調査報告V』1988年。
- 11 富山大学考古学研究室『越中上末麻』考古学研究報告第3冊 1989年。
- 12 富山県『富山県史』考古編 1972年。
- 13 富山県教育委員会『富山県遺跡地図』1972年。
- 14 藤田富士夫『富山』日本の古代遺跡13 保育社 1983年。
- 15 森 秀雄『大昔の富山県』1950年。
- 16 吉岡康暢『東大寺領横江庄遺跡』松任市教育委員会 石川考古学研究会 1983年。
- 17 吉岡康暢『加賀、珠洲』世界陶磁全集3、日本中世 1977年。
- 18 吉岡康暢『中世陶器の生産と流通』考古学研究108号 1981年。

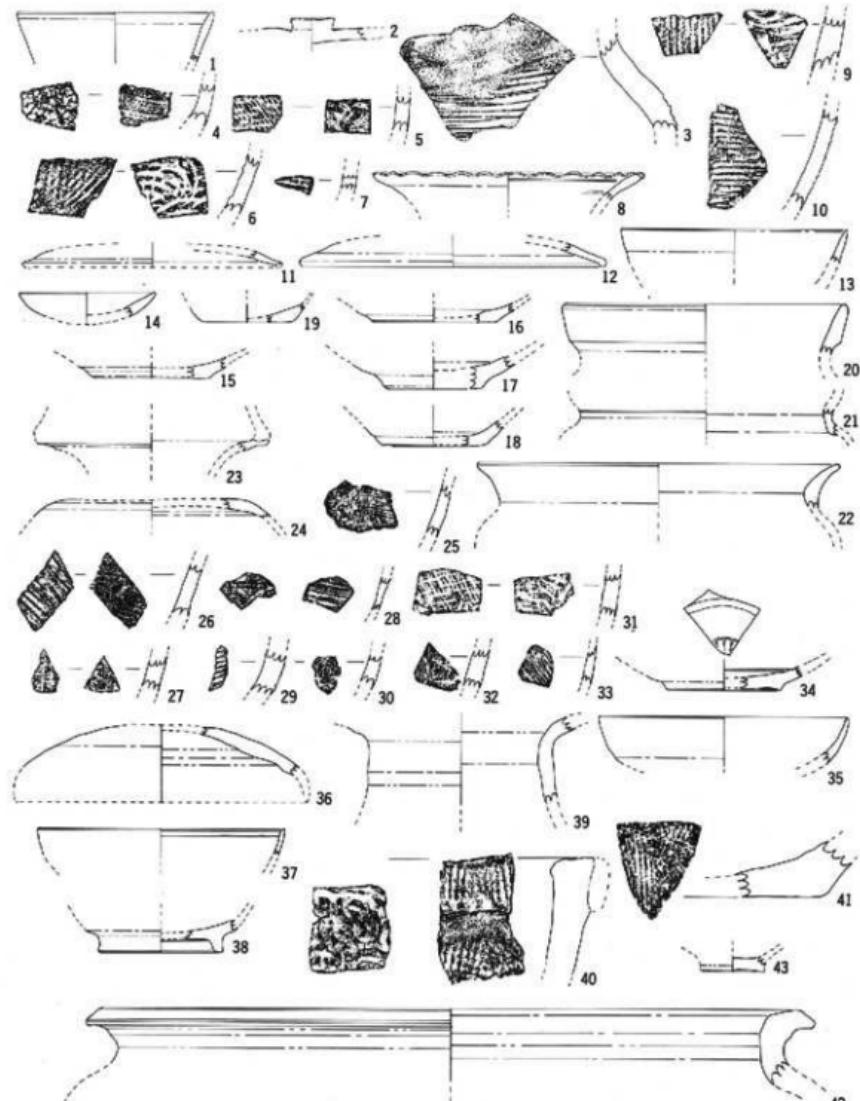
図版一 調査地区現況写真





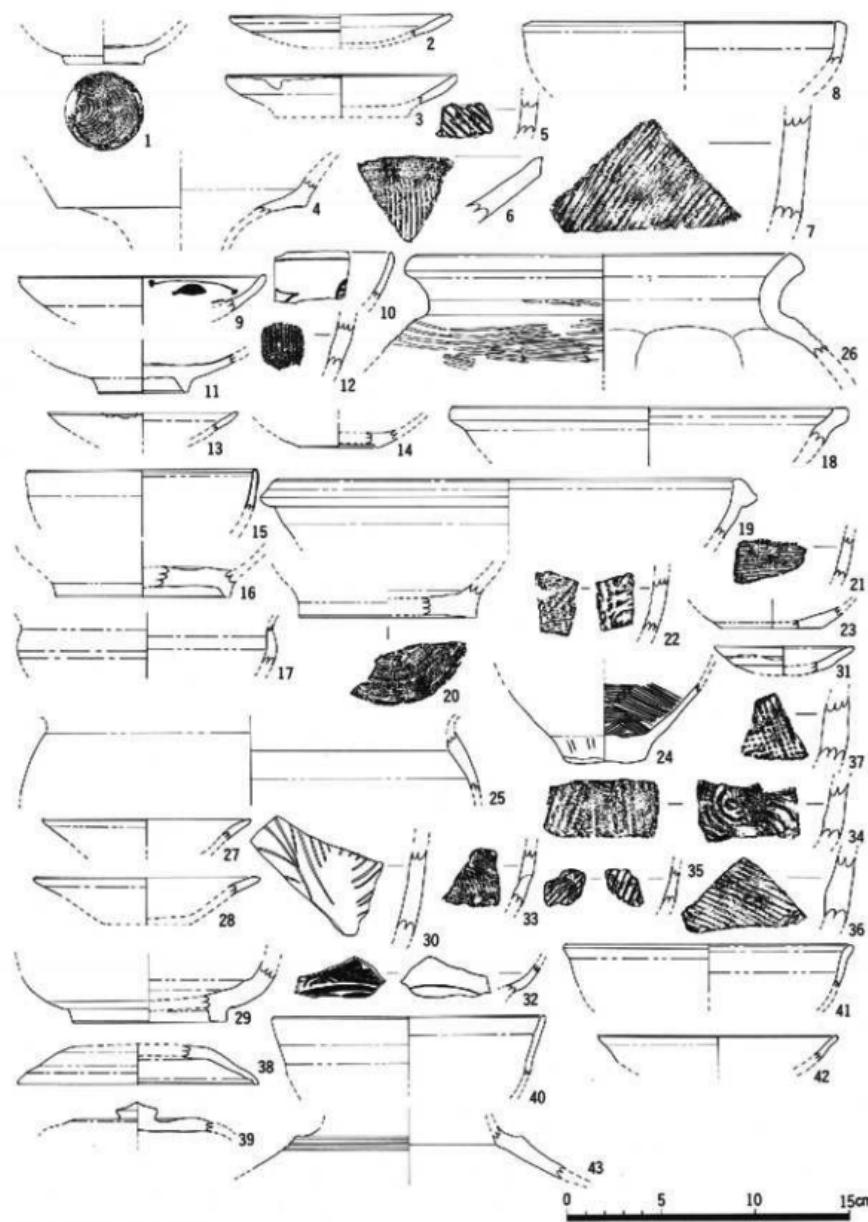
縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器

(1:正印新遺跡、2~4:飯坂遺跡、5~13・27:江上A遺跡、14~26・28~33:東江上遺跡、34~44:中小泉東遺跡、45~51:若杉神田遺跡、縮尺1/3、図版12参照)



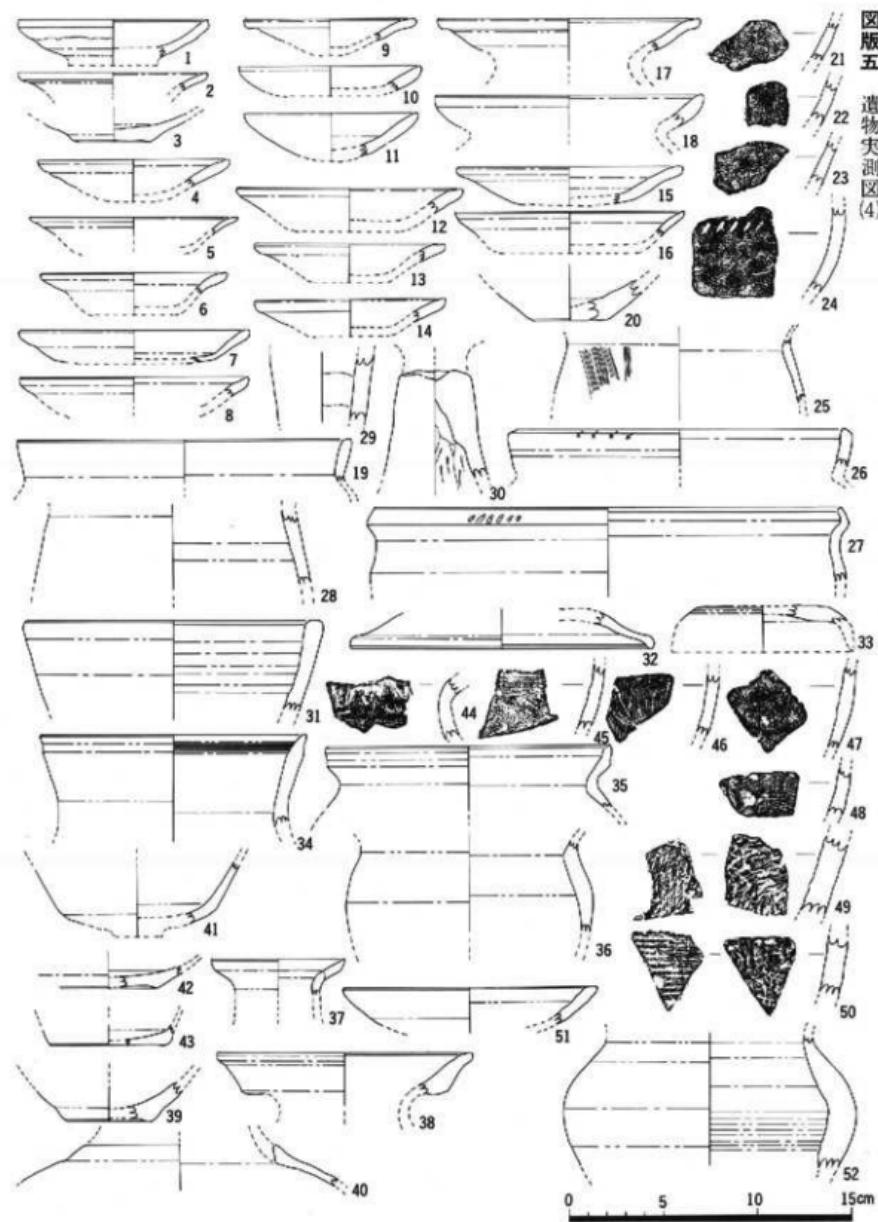
須恵器・土師器・珠洲・陶磁器

(1～7：若杉神田遺跡、8～13：若杉堺田遺跡、14～33：大永田西遺跡、34～43：石仏南遺跡、縮尺1/3、図版12参照)



共生土器、須恵器、陶磁器

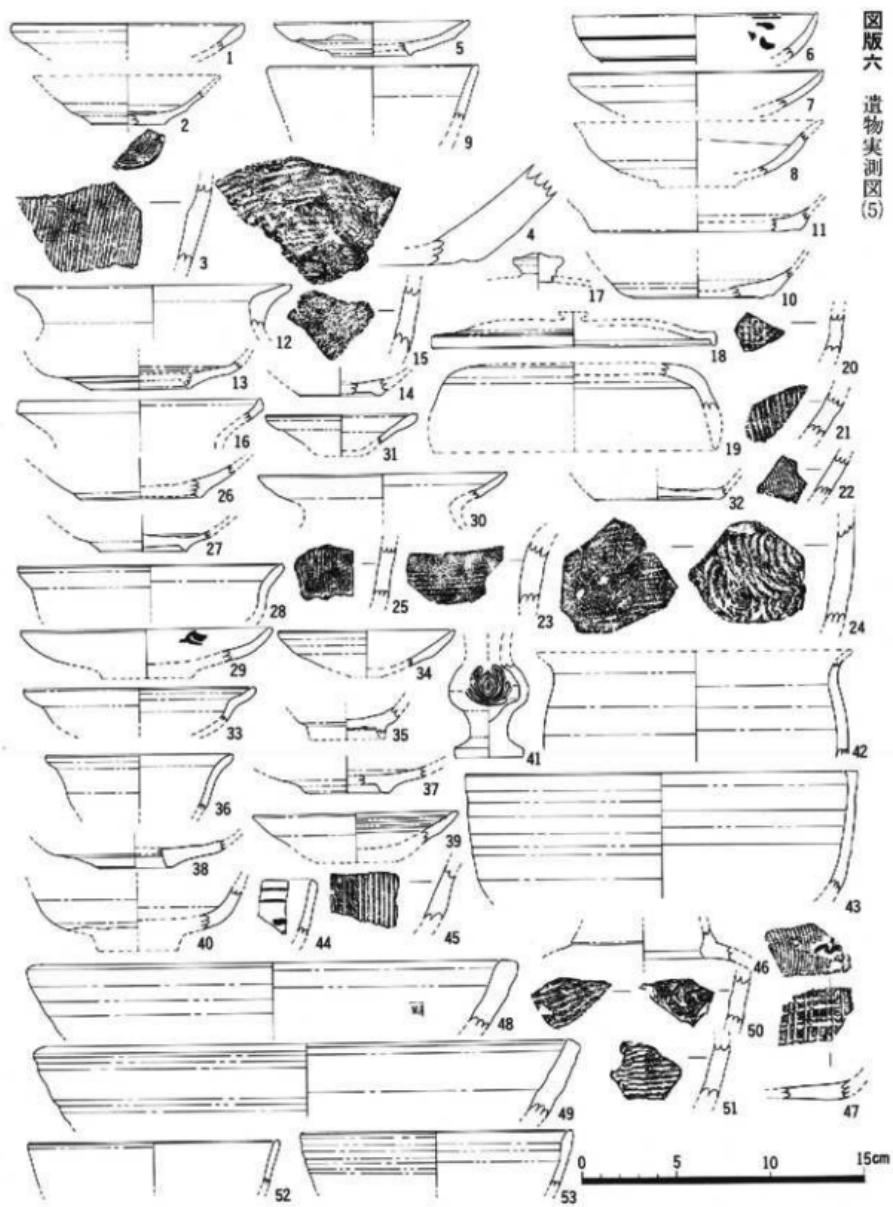
(1:石仏町遺跡, 2~8・26:下青出遺跡, 9~25:中青出遺跡, 27~43:中青出南遺跡, 縮尺1/3, 図版13参照)



弥生土器、須恵器、土師器、陶器

(1~33: 中間発北遺跡, 34~36・44~48: 飯坂北遺跡, 37~43・49~52: 放土ヶ瀬南遺跡, 比尺1/3, 図版13参照)

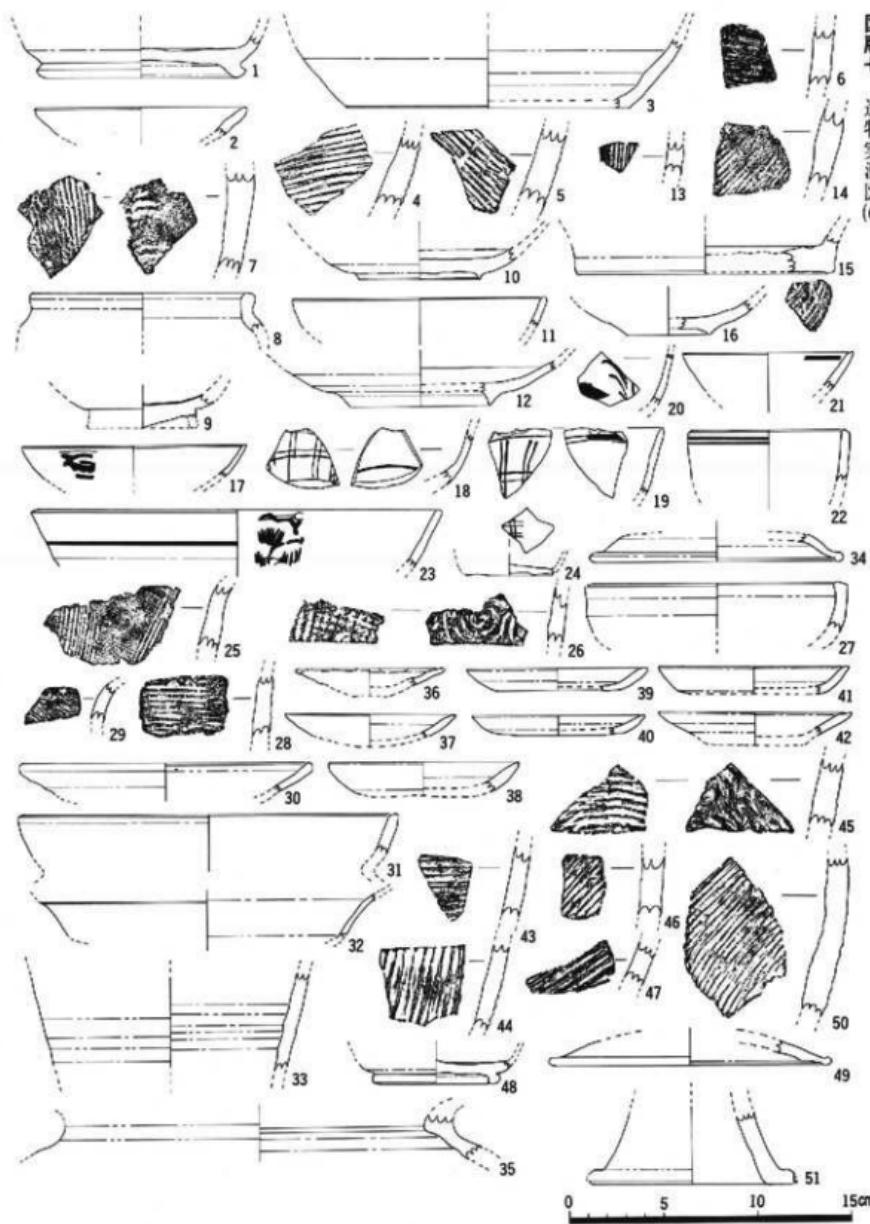
図版六 遺物実測図(5)



須恵器・土師器、株洲、陶磁器

(1~3・12: 放士ヶ瀬南遺跡, 4~11: 放士ヶ瀬西遺跡, 13~16: 放士ヶ瀬新遺跡, 17~32: 下荒又遺跡, 33~53: ア-1地区、縮尺1/3, 図版14参照)

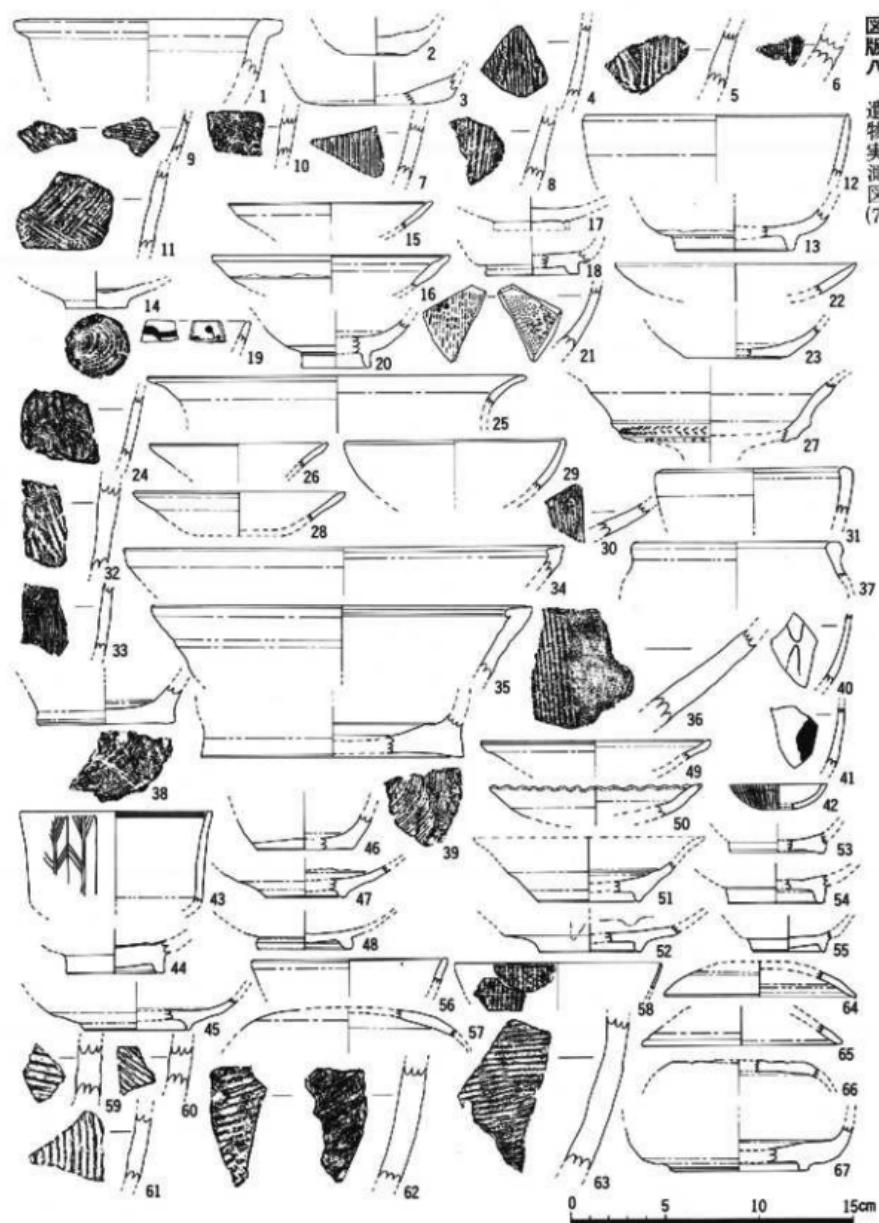
図版七 遺物実測図(6)



須恵器、土師器、珠洲、陶磁器

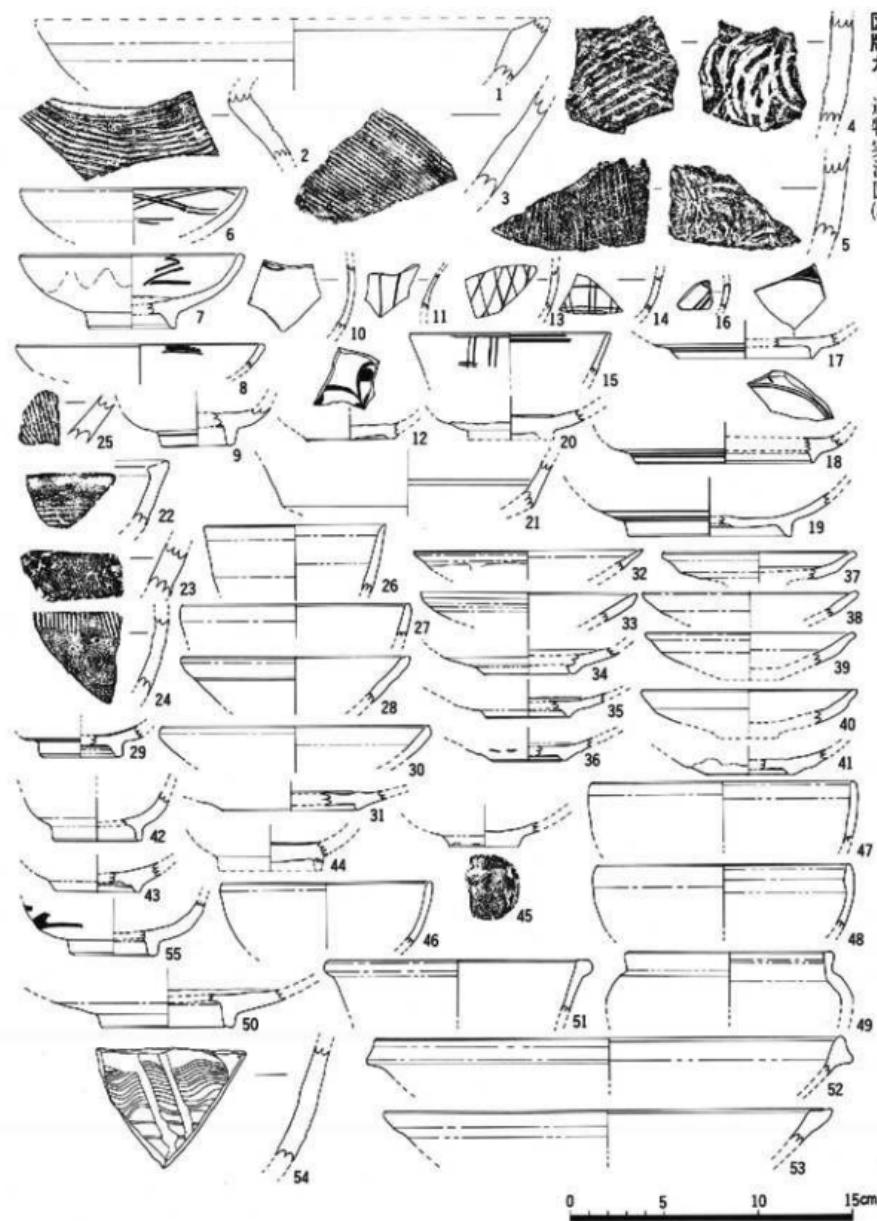
(1~7・14:ア-1地区, 8~13・15~35:ア-2地区, 36~51:ア-3地区, 縦尺1/3, 図版14・15参照)

図版八 遺物実測図(7)



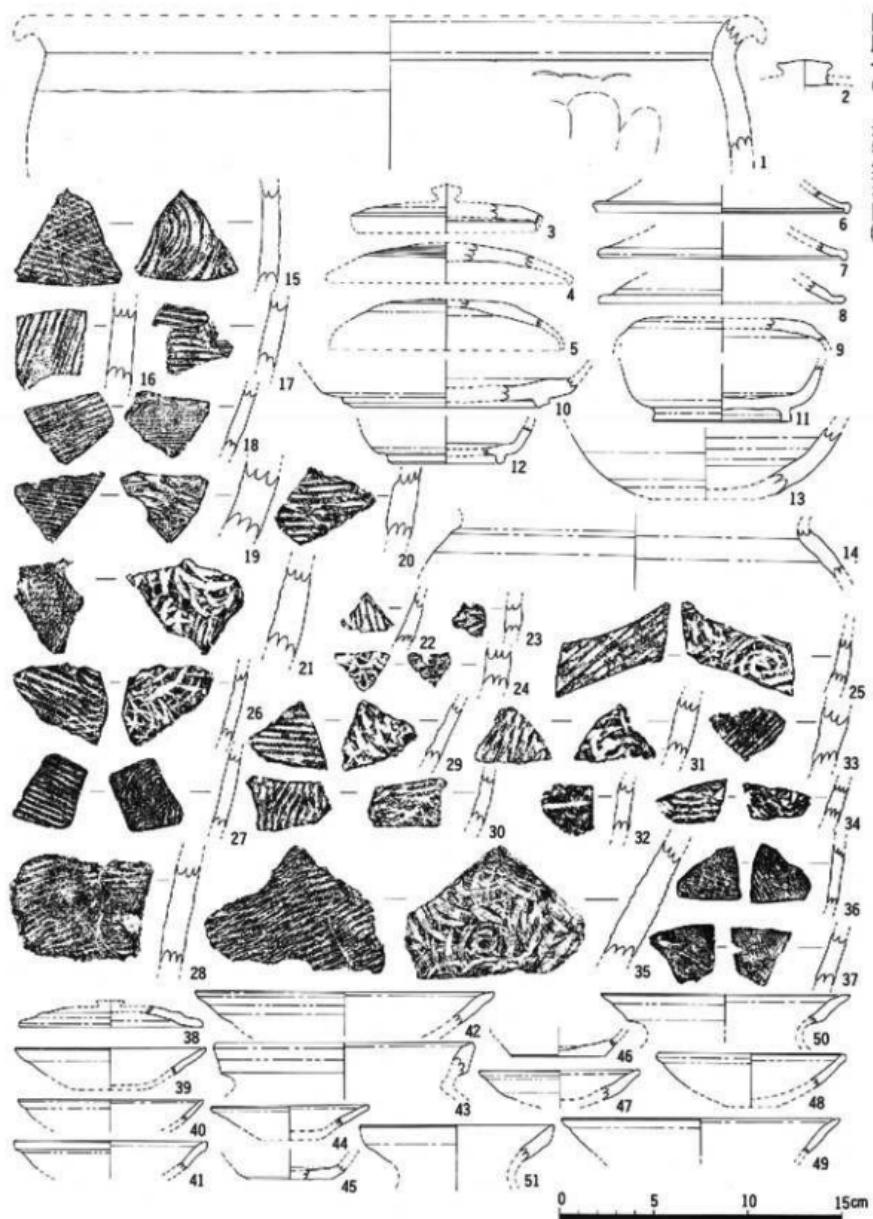
弥生土器、須恵器、土師器、珠洲、陶磁器
(1~21:ア-3地区、22~67:ア-4地区、縮尺1/3、図版15参照)

圖版九 遺物実測図(8)



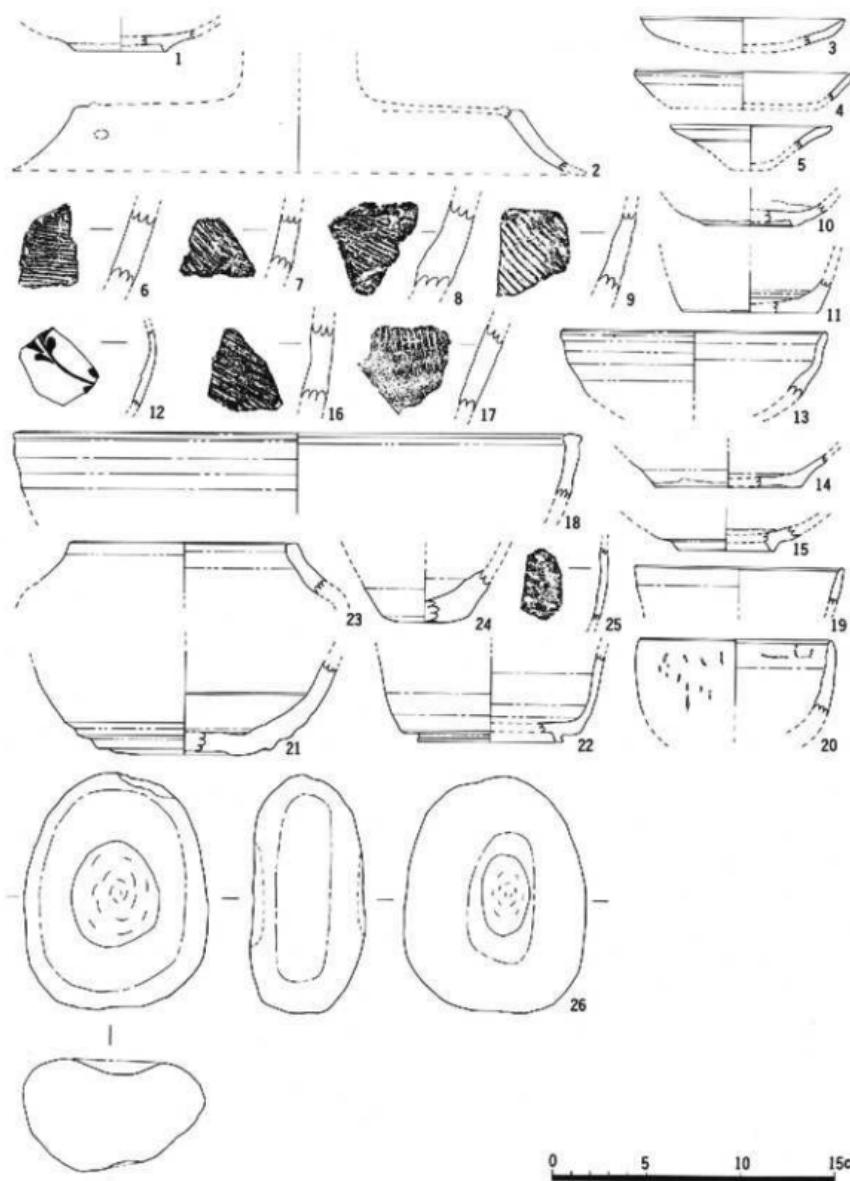
須恵器、珠洲、陶磁器

(1~5: T-4地区, 6~55: T-5地区, 縮尺1/3, 図版15・16参照)



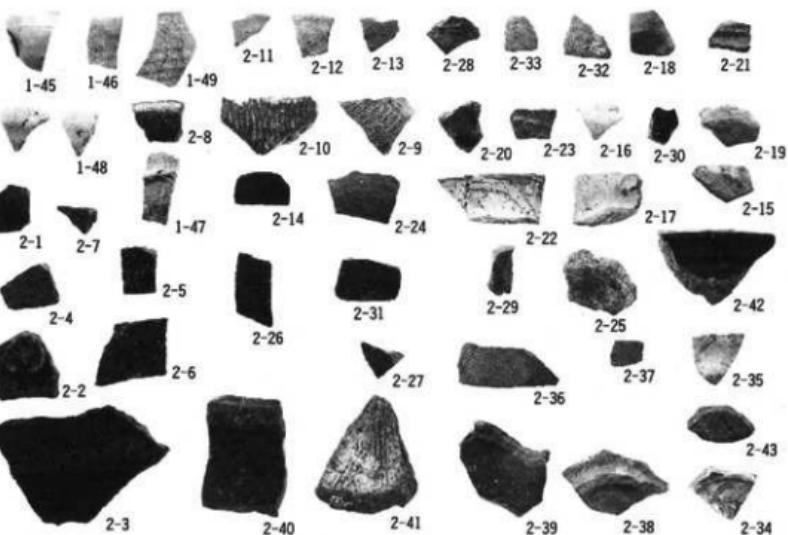
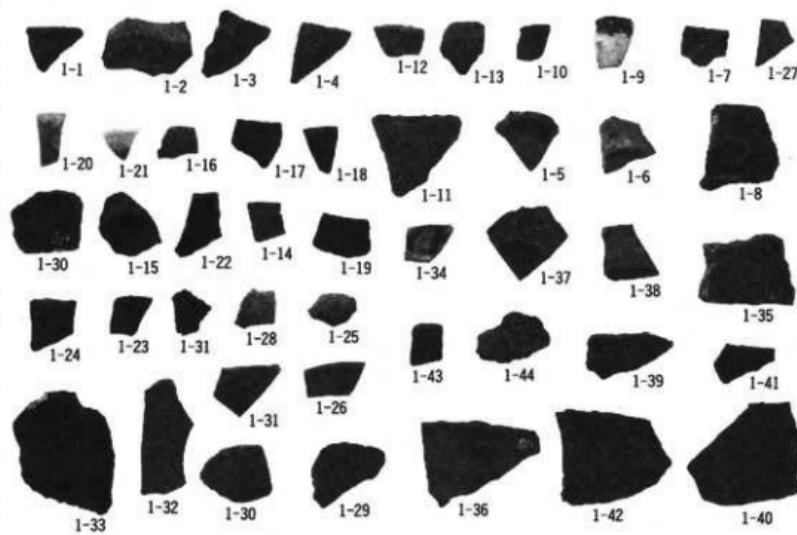
弥生土器、須恵器、土師器
(1~51: A-5地区, 縮尺1/3, 図版16・17参照)

圖版
二
遺物実測図(10)

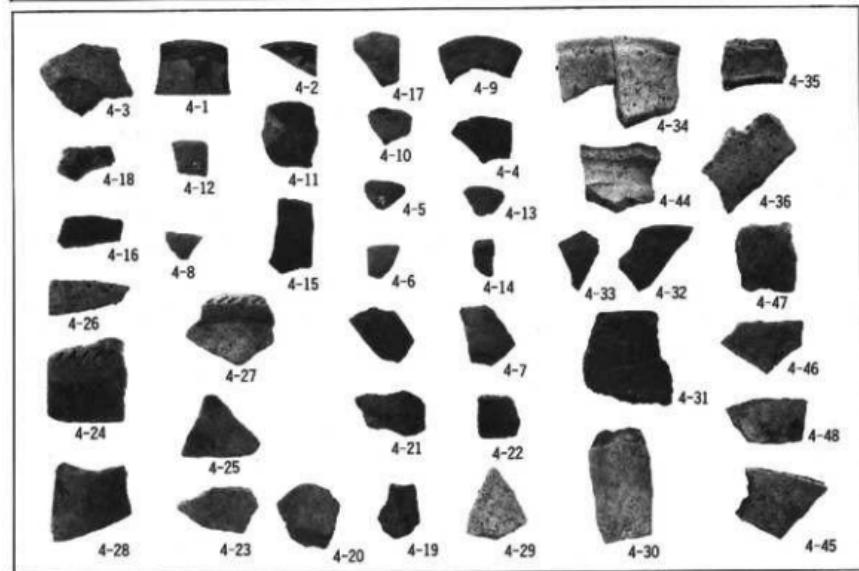
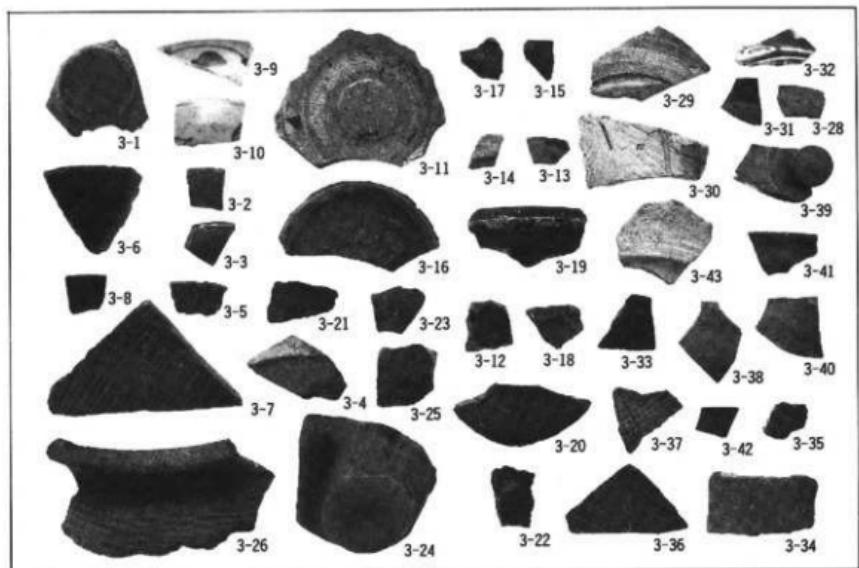


圓文石器、焼土器、須恵器、珠洲、陶器

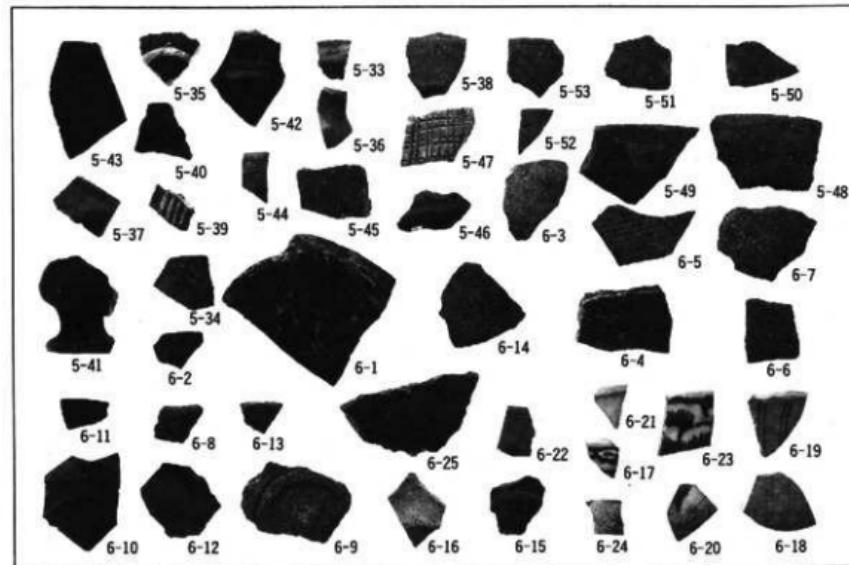
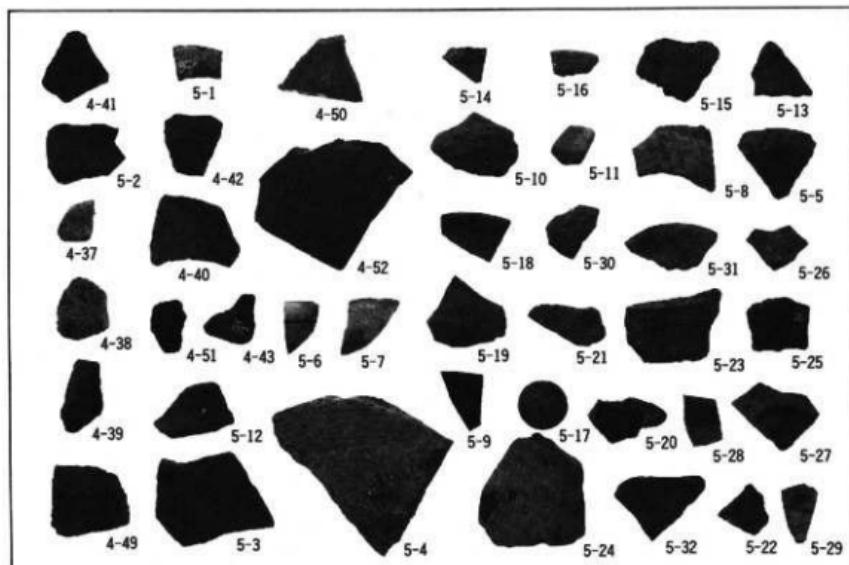
(1・2:ア-5地区, 3~11:石仏遺跡, 12~18:中開発遺跡, 19~22:放士ヶ瀬北遺跡, 23~25:相ノ木北遺跡, 26:ア-3地区, 縦尺1/3, 図版17参照)



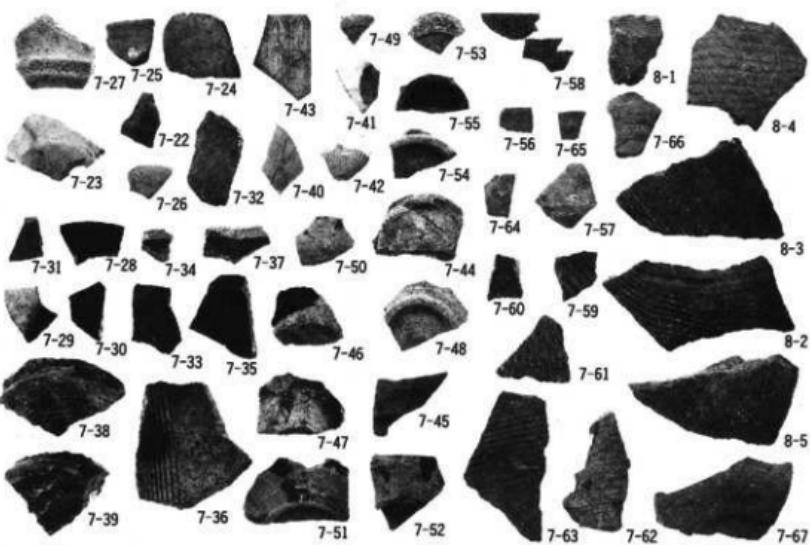
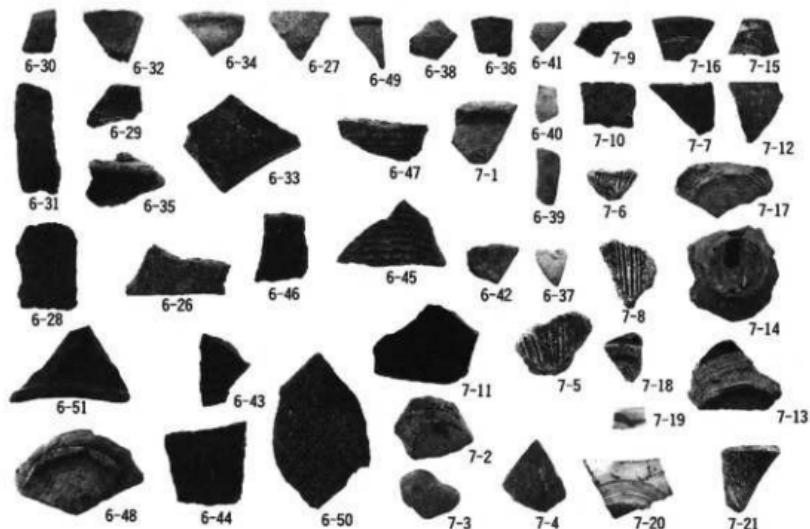
縄文土器、弥生土器、須恵器、珠淵、土師器、陶磁器（図版2・3参照）



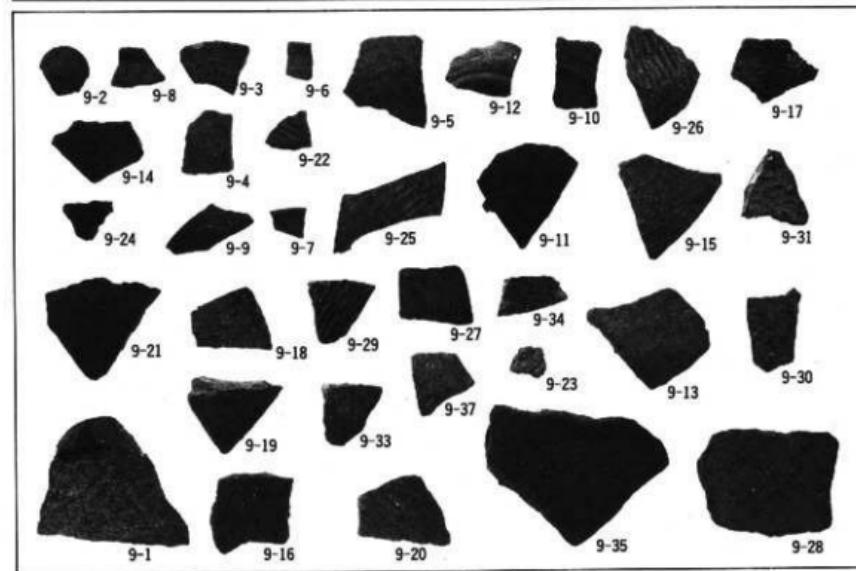
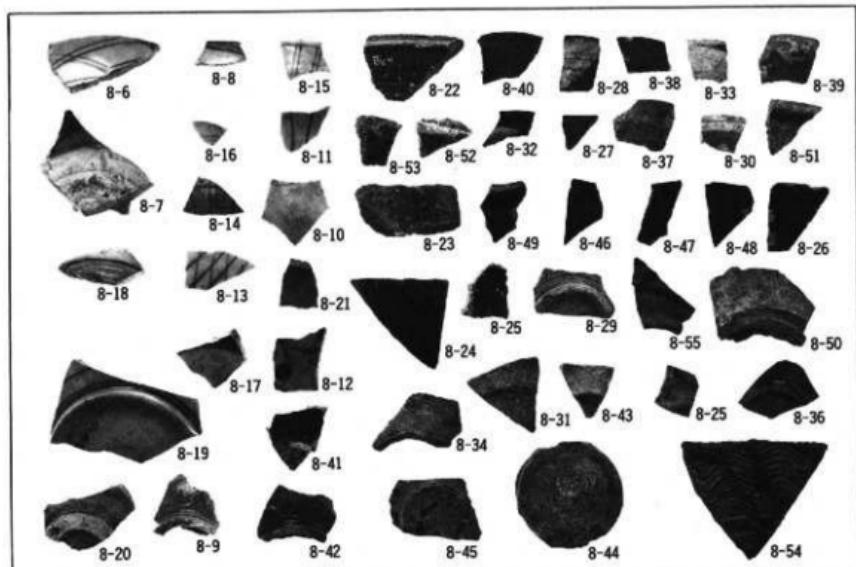
弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器（図版4・3 参照）



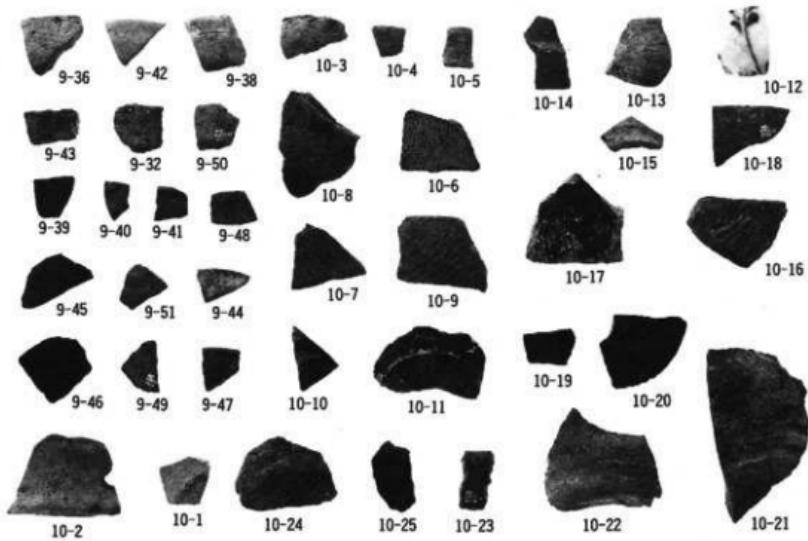
須恵器、土師器、珠洲、陶磁器（図版4・5・6参照）



弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器（図版6・7・8参照）



須恵器、陶磁器（図版8・9参照）



繩文石器、弥生土器、須恵器、珠洲、陶磁器（圖版9・10参照）



1993年3月25日 印刷
1993年3月31日 発行

上市町埋蔵文化財分布調査報告V

編集発行 上市町教育委員会
印刷 リードツールズ

